

旭川インラインホッケーリーグ 開催要項 第27回

目的:

旭川インラインリーグは、クラス(部)分けでの試合を行っていない事もあり

「楽しむ > 競う」事をスローガンにリーグを運営し、参加者全員が怪我がない様、充分な配慮をおこなう

1. 時間

表-1

多目的コート使用時間		17時45分
試合開始時間		19時40分
試合開始最遅時間		20時00分
第1ピリオド	入込 12分	19:40~19:52
休憩	2分	19:52~19:54
第2ピリオド	入込 12分	19:54~20:06
休憩	2分	20:06~20:08
第3ピリオド	入込 12分	20:08~20:20
忠和体育館 鍵返却時間		20時45分迄

※時間を前倒しで行うことは、問題ないが、遅くなる場合は、20時45分閉館までに鍵を必ず返却すること。尚、照明は21時消灯。

※多目的コート使用時間は、
17:45~20:45
消灯閉館 21:00

※鍵を早目に返す場合は、受付に消灯21時を依頼して下さい。

2. 試合運営

(1)参加資格

中学生・高校生は、保護者の同意があれば参加を認める。フルフェイス・ネックガードを装着するが、暑い場合はネックガードを外す事は構わないが、怪我については自己責任とする。

女性のショルダー着用は可能である。

小学生は成人の試合への参加は安全上、認めない。

年齢上限は設けないが、必要に応じ試合時オフィシャル・相手チームに告知を推奨する。

(2)めがねを掛けている場合は、フルフェイスとする。

(3)背番号は無くても構わないが、チーム代表者及び、チーム運営委員はメンバー名の把握をしていることが前提。

(4)試合中止の連絡・対応

ア. 降雨による試合中止は、当日15時頃までにインライン委員会からグループラインにて代表者へ連絡を行う。

イ. 人数不足による中止は、該当チームが当日12時までに、代表者がグループラインで連絡おこなう。

その場合のコート使用料を、中止のチームが2週間以内にインライン委員会に支払う事。

尚、これが降雨で使用不可となった場合とコート使用代金支払い前の場合は支払う必要はない。

ウ. 降雨及び、人数不足による中止となった試合は、再試合を基本とするが日程が確保できない場合は、該当チームに中止の連絡を行う。* 降雨の場合「0対0」、人数不足「0対15」とする。

エ. 人数不足による中止が、2試合連続など頻繁に発生するチームは、代表者と運営委員会で協議を行う場合がある。

(4)必要に応じインライン委員会は、運営委員会とも協議する場を設けることがある。

3. 試合及び、ルール

(1)試合人数

ゴールキーパーなしのプレイヤー4名で試合を行う。控えの人数に制限は設けない。

尚、3名以上でも両チームが合意すれば、特例として試合成立とする。但し、確実に3名以上集まらない場合は、相手チームに迷惑が掛かりますので人数不足棄権をの選択を検討してください。

補足: チームのメンバーがコートに2人以下しか集まらない場合は、試合不成立となります。

(2)4人対3人で試合成立した場合はアイシング等のルールは通常ルールとする。

(3)3人のチームが助っ人を入れることは両チームが合意すれば可能である。その場合は、当日の試合チーム・当日のオフィシャルからに限る。その場合、オフィシャルに報告する事。

(4)ペナルティ発生時のオフサイドのルールは、4人対4人のルールと変わらない。

尚、アイシングは人数の少ないチームはアイスホッケー同様になし。

(2)試合前の使用(練習)

ア. 当日試合のチームとオフィシャルチームが使用可能であるが、試合チームが優先する。

くれぐれも、1チームで占有せず譲り合って使用すること。

尚、当日試合・オフィシャルチーム以外でも、試合開始前に空いていれば使用可能であるが、試合開始前の使用中に降雨試合中止となった場合でも、このチームはコート使用料をインライン委員会に支払わなくてよい。

イ. 試合前の練習は、19時15分までには、ベンチとコートを試合チームに引き継ぐこと。

(2)試合時間は、表-1による。

(3)試合開始前の挨拶後はアイスホッケー同様に、両チーム代表者はライズマンに挨拶を行う事。

(4) ペナルティ

ア. 膝より高いシュート

膝をついてのプレー: ゴールグリーズ内で膝をついた状態でパックに触れた場合は(シュート・横切るパスも)、ゴール(得点)とする。
但し、このペナルティは記録のみとし退場にはしない。

※膝より高いシュートは大変危険です、十分に注意してください。

イ. ペナルティを犯した選手は、1分30秒の退場とする。但し、コート上は最少2名とし、3名以降はペナルティ選手復帰後に退場→1分30秒の計測を開始する。

(5) その他、ペナルティ・危険なプレーの防止について

ア. 過度なボディコンタクトは避ける事。

イ. 多目的コートの設備上、フェンス際は水たまり・落ち葉などで滑りやすいため、フェンス際のプレーには充分注意すること。

4. オフィシャルの役割

(1) ジャッジ(ペナルティ含)進行を行うラインスマンと時間・得点・記録。

(2) 割り当てられたチームは、ラインスマン2名+得点記録とタイマー 計3名以上で行うこと。

尚、最低人数はラインスマン1名+得点記録とタイマー1名 計2名で可能であるが、推奨はしない。

(3) 危険と思われるプレー(ペナルティと判断しづらいプレーも含む)が発生した場合、例えば「接触したようなプレーでどちらかが転倒した場合」「パックが見えづらく、パックが高く上がったか確認できない場合」などは、ホイッスルを吹き、いったん試合を止めてください。

(4) コートの外の得点係のオフィシャルもホイッスルを準備し、上記状況などではラインスマン同様にホイッスルを吹いて試合を止める役割を持つ。

※(3)(4)の内容は、2018-5/14代表者会議での「怪我防止」を目的とし、オフィシャルの役割として協議されています。オフィシャルが不慣れな方もいる前提で、「ホイッスルが吹くことに抵抗を無くすことも目的です」

(5) 試合進行上不都合が発生した場合は、オフィシャルと両チーム代表者は、対応を協議をしてください。

その場合、インライン委員会に報告をお願いします(メールで可)。

(6) 試合結果は速やかに、インライン委員会ホームページへのメール、又は、全送メールにて連絡を行う事。

5. 多目的コートの使用について

(1) ごみ・吸殻・テープ類は、必ず持ち帰ること。又、排水溝などへの吸殻・ゴミを捨てない事。

(2) 着替えは速やかに行い、上半身裸など、他の公園利用者に不快感を与えないようにする事。

(3) 多目的コート内の、ゴミ・虫など転倒につながる危険がある場合は参加者が掃除をしてください。

6. その他

(1) アイスホッケー連盟インライン委員会は、旭川アイスホッケーの大綱に沿い、運営委員とともに当リーグの運営を行う。試合内の怪我・盗難などは、各自でその対応を行うものとする(保険など)。

(2) 試合用パックは、試合以外には使用しない事、持ち出しも禁止する。また、試合用パックが使用できない状況が発生した場合は、試合チーム・オフィシャル合意の基、使用可能なパックでの行う事は可能である。

(3) 設備・得点版・備品は、共有のものであり大切に使用する事。破損・不具合が発生した場合は、各チームの運営委員→忠和運動公園・インライン委員会に連絡する事。くれぐれも、放置しないようにお願いします。

(4) ゴールグリーズ内に止まったパックを、叩いたりする行為

ゴールグリーズ内に止まったパックを攻撃側の選手が触れることは禁止。

ゴール前のトラブルを避けるため、スティックでの争いがあった場合はレフェリーが試合を止めること

(5) ゴール白線にゴールボードを合せてください。白線を超えたら得点となります。

(6) 怪我防止を目的に過度なプレーや危険なプレーが見られた場合は、レフリーは試合を止め、両代表者に注意を行ってください。

(1) 膝より高いシュートは大変危険です、十分に注意してください「ペナルティ対象」。ゴール前は回避が難しいので一層の注意をしてください。体に当たらなくてもゴールボードに当たった場合もペナルティです。

(2) ゴールグリーズ内に止まったパックを攻撃側の選手が触れることは禁止。

但し、ディフェンス側の選手がゴールグリーズ内に居ない場合は、シュート及び、パックに触れることは可能とする。

(4) フリックパスは、パックを出す方向に人がいる場合は上半身や顔に当たるようなことの無いように注意する事。レフェリーが危険と考える場合は試合を止めてチームに注意喚起してください。

※以上の内容はリーグ戦途中でも、リーグの円滑な運営と危険なプレー回避を目的に、見直すことがある。